

整理番号	19-49	事務事業名	(障がいサービス事業) 朗読・点訳ボランティア養成事業	作成部署	保健福祉部福祉課	電話	内線812	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	上村 弘志	課長職名	小西 洋一	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度		根拠法令等	障害者社会参加促進事業実施要綱					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	視覚障がい者を支援するため、労働、点訳ボランティアの養成と技術の向上を目的に事業開始。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	安全で安心できるまち	(第1章)
	節	障害福祉	(第4節)
	施策	社会参加の促進	(第2施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	朗読・点訳のボランティアサークルなど	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	視覚障がい者のために朗読・点訳を行うボランティアを対象に、養成講座を開催し、技術の向上を図る。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等)の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	朗読・点訳の技術向上を目的とした養成講座を開催、対象となるボランティアサークル会員が受講。
		17年度	同上

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金	433	396	465	465
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	229	153	233	233
	合計	662	549	698	698
人件費(概算)	人数(年間)	0.01	0.01	0.01	0.01
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	90	90	90	90
総事業費 +		752	639	788	788

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	講座開催数	2回	2回	2回	2回
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	点訳受講者数	22人	28人	28人	28人
	朗読受講者数	26人	26人	26人	26人
	合計	48人	54人	54人	54人
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	受講者1人当たりコスト	15,600円	11,800円	14,600円	14,600円
	(総事業費 ÷ 受講者人数)				

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	在宅で生活する視覚障がい者を支援するボランティアを育成援護するものであり、必要性は高い。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	障がい者が在宅で生活を継続していくためのボランティア育成であり、公益性が高い。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	在宅の障がい者に各種情報を提供するボランティアを育成するものであり、今後もニーズは高まるものと思われる。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	ボランティアの育成であり妥当である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	ボランティアの育成と技術の向上が図られている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	点字・声の広報事業等に繋がっている。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	在宅で自立した生活を継続していくための支援、ボランティア育成として有効であり継続していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり